

文学学

山田 昌裕

2011年度の研究論文の中では、鈴木智美「ブログ等に見られる「{動名詞(VN)／感動詞相当句}＋です」文について―「～に感謝です」「～をよろしくです」の意味・機能―」『留学生日本語教育センター論集』37(東京外国語大学)が今後の展開が期待されるテーマであると思われる。分析対象とする例はブログ等に見られる「関係者の方々に感謝です」「11月からの営業に期待ですね!」「新しいガジェットに飛びついてしまう自分を反省です」のような、形式的には名詞述語文であるが、「～を」「～に」などの補語を伴う例である。この表現の特殊性は二字漢語の中に名詞性と動詞性を合わせ持つものがある(筆者はこれを動名詞とする)ところから来ている。また発展型と考えられる「トレンドマイクロウイルスバスター2009をよろしくです」「楽しい思い出をありがとうございます」のような例も対象としている。

形式的な特徴として、①「過去形(「～でした」)では現れることがあるが、否定形では現れない」、意味的特徴として、②「新聞の投書欄や雑誌のエッセイ、あるいはウェブ上のブログ記事等に特徴的に観察される」、③「形式によっては、あるまとまった内容を持つ談話の終了部に現れ、しめくくりの機能を果たしていることが観察される」、④「直接的な訴えかけによる聞き手への心的負担、結果的にはそのことから生じる話者自身の心的負担等を避ける働きがあるのではないかと思

われる」と述べる。

④に関しては論証過程を経ていないし、また小説などにも「その腹いたが、よかつたのだ。腹いたに感謝だ」(太宰治『津軽』1944年)などの例が見られ、②③④などの再考を要す。しかしながらこの表現形式の研究に関しては、今後多方面への発展が期待される。

例えば、江戸期の「合点」には「人のいふ事よく合点する女郎にうなづかせて行に」(『好色一代男』)という動詞としての用法もあるが、「そのならぬを合点で口舌くぜつしに來た客なれば、もとよりことわり断を聞入れず」(『傾城禁短氣』)のように「～を」を伴った「合点だ」と見られる例がある。「動名詞＋です」の源流は意外と古いところにある可能性があり、今後の通時的研究が期待される。また現代語の「です」は動詞に直接承接しないが、「状々工夫をしてたてなほ建直すです」(泉鏡花「貸家一覽」『太陽』1909年)のように明治期には動詞に下接する例が見られる(方言との関わりの可能性もある)。「です」にこの素地があれば、「～に」「～を」を伴う二字漢語動詞に「です」が承接し、「～に期待です」「～を反省です」という表現形式が成立するのも自然なことであろう。このように「です」の研究との関わりも見えてくる。さらに通時的研究となれば文法化という観点からの研究もありうるであろうし、語彙的観点から和語、漢語、外来語などの語種との相関も問題となろう。

「動名詞＋です」の研究は今後の発展に期待だ。

(恵泉女学園大学)